国語科教育（小学校）部会

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導
～言語活動の充実を通しての研究～

Ⅰ　研究テーマについて

日本語教育をめぐる状況を振り返ると，「言語教育の面においても，読み方教育の面においても言語や作品の内容を深く読み取ることを重視せずに，様々な活動を行わせる傾向が見られる」ことや，「全国学力学習状況調査を悉皆調査で行っていることで，点数を上げることを目標とした指導が求められるようになり，私たちの教育実践にも多大な影響を与えている」といったことが課題としてあげられている。

日本語を教えるとは，何をどう育てることなのか，子どもたちにとって真の「生きてはたらく力」がどのような指導過程によって育っていくのか，言語活動の充実を通して，課題を明らかにしながら実践を積み重ねていきたいという思いのもと本年度の研究を進めてきた。

Ⅱ　研究の内容

1　実践交流

国語科の学習で思考力・判断力・表現力を育むための指導をどのように行ったか実践を発表し合い，交流した。様々な年齢層の先生方がいる中で，研究テーマを意識しながら実践発表ができ，学ぶことが多かった。すぐに実践できるような取り組みもあり，参考にして自身の実践に還元することもできた。教科書や指導要領が変わり，新しい教材もあるので悩む部分もあり，他の先生方の実践を知ることができたことは有意義であった。

2　授業研究

（1）教材名「つながりに気をつけて文章を書く」（光村図書４年下）

第４学年　書くこと　エ　言語活動例B

甲州市立塩山北小学校　第４学年　中根　絵里教諭

（2）単元の目標

①主語と述語の関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。【知（１）カ】

②間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えることができる。【思B（１）エ】

（３）成果と課題

○しっかりした授業案が提案されたことにより，授業案検討の話し合いが充実した。実際に部員がワークシートの問題に取り組んでみる等，授業案や学習内容検討の時間を十分に確保することができた。

○感染症の予防対策として今年度は，授業の様子を事前にビデオ録画したものを参観してから研究会を行った。実際の授業を参観できなかったことは残念であったが，感染症のことを考えると妥当であった。また，ビデオで授業の様子を視聴し，授業者の先生の話，ノートからも子どもたちの様子を十分見取ることができた。このような手段も今後取り入れながら研究をすることが可能になると考えられる。

○ホワイトボードを活用してこれまでの学習を掲示していたため，前時までの学習による「文章を分かりやすく書くコツ」をすぐに確認することができ，これまでの学びがしっかり身についている様子が伝わってきた。

○展開部分では，「全部で何文ある？」という問いから始まり丁寧に確認してから自力解決に進んだので児童も安心して課題に取り組めていた。

○ただ文法を知るだけでなく，課題文の分かりにくさや，改善後の文の分かりやすさを実感させ，自己内対話や他者との対話ができ，深く言語を読み扱うことのできる授業をつくることができた。

Ⅲ　成果と課題

○コロナ禍で活動に制限があり，回数も減った中での研究であったが，実践発表・授業研を通して充実した研究ができた。実践発表する人数が多い日にはもう少し時間があるとさらに実りの多いものになると思うが，今年度は実施できない回もあり，回数が減少してしまったので，次年度以降は改善することが可能だと考える。

○「生きてはたらく力」を目指した授業を行うことで，思考力等だけでなく，知識・理解もおさえることができた。

○統一授業研等，今年度同様に中学校とは別れて研究することができるとよい。回数が減っている中，それぞれで研究を行った方が，小学校部会としての研究が深まると思う。８月か２月どちらかで研究授業でよいと考えるが，８月に統一授業研を行うとなると，授業案の検討の時間が短くなってしまうことが心配だ。

○言語活動の充実を目指した実践に数多く触れることができた。来年度以降，大きなテーマのもと内容を絞って（書く力・読解力など）研究をすすめることで，より研究が焦点化され深められるのではないだろうか。

（部長　　田邉　珠紀）